

# 福島第一原発で、3次下請け作業員が 放射性廃液を浴びる事故が発生！



【上の写真】事故が起きた現場。廃液を流すホースはタンク左上の位置でひもで縛っていたが、配管内で発生したガスが流れた勢いでホースの先がタンクから飛び出し、廃液が飛び散ったという＝福島第一原発、東京電力提供

## ALPS 配管の洗浄作業 廃液のホースはなぜ抜けたのか

10月25日、福島第一原発で、作業中の3次下請けの作業員が、高濃度の放射性廃液をかぶって身体が汚染され、2人が病院に搬送される事故が発生しました。

原子炉の核燃料が溶ける（メルトダウン）大事故を起こした福島第一原発では、入り込む地下水が溶けた核燃料に触れ、放射能に汚染された水が、毎日発生し続けています。その汚染水の中の放射能を、出来るだけ取り除くための装置がALPS（アルプス）＝多核種除去装置です。

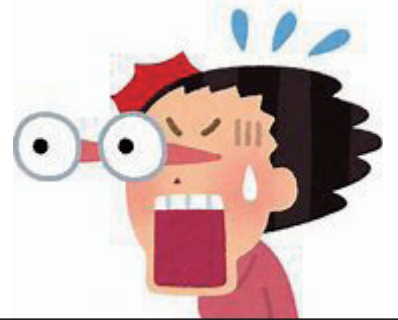
この装置の配管の中の物質（ストロンチウム90を多く含む炭酸塩）を硝酸で溶かして洗浄するメンテナンス作業中に、事故が起きました。降りかかった廃液の放射能濃度は、装置にかける前の汚染水の約4000倍にもなっていました。

ところが、危険な廃液を扱うにもかかわらず、作業は仮の設備で行われ、廃液をタンクに入

れるためのホースは、ロープでしばっただけでした。しばった場所も悪く、思った以上に発生したガスの圧力で、ホースがタンクから抜けて暴れ、液状かミスト状の廃液が作業員に降りかかりました。

ズサンな仮の設備で作業をさせていた、これが第一の問題です。

【裏面につづく】



全造船関東地協労働組合  
よこはまシティユニオン

〒230-0062 横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505  
TEL&FAX 045-575-1948  
E-mail yuniyoko@d2.dion.ne.jp



## 何重もの下請け体制 3つの下請け会社の5人で作業

東京電力は、事故後の会見で、浴びた廃液の量は100ミリリットル、作業していたのは、一次請け会社の5人、と発表しましたが、その後、廃液の量は数リットル、作業していたのは3次請けの3社で5名（3名+1名+1名）、と訂正しました。

体に浴びた放射能を測るサーベイメーターが振り切れ、病院に搬送されたAさんは、経験4ヶ月の20代。洗浄作業する時に必要なアノラック（防水カップ）を着ていないまま（Cさんは着ていた）別の会社のCさんと作業を交代してホースに近寄り、廃液をかぶってしまいました。Aさんの会社の安全管理をする作業班長はこの日病気で休み、代理の班長（2次請会社）も現場におらず、実際は一番経験の長いCさんが作業を仕切っていた、「偽装請負」の状態だったと指摘されています。

作業の指揮系統と安全管理の責任があいまいだった、これが第二の問題です。何重もの下請構造、下請けまかせの作業と安全管理、事故が起きるたびに、何度も指摘されてきた問題です。東京電力は、直ちに多重下請けをやめるべきです。



## 放射能をかき集める ALPS 処理作業、地下水を遮断し抜本解決を！

汚染水から放射能を取り除くフィルターや設備には、逆に高濃度の放射性物質が付着するので、装置のメンテナンスでは、作業する人が高い放射能に被曝する危険があります。また、ALPS 処理で発生したスラッジ（汚泥）なども放射能が高く、処理方法や保管場所が問題になっています。

“汚染水を ALPS で処理する”と言いますが、放射能は無くならないので、逆に見れば、水の中の放射能をかき集める作業です。汚染水の海洋放出を止め、ALPS 処理での事故のリスクを減らすためにも、原子炉に入り込む地下水を完全に遮断して、汚染水を増やさないう、抜本的な解決を図るべきです。

【組合員 N】

おしどりマコ・ケンの  
情報発信サイト OSHIDORI Portal

<http://oshidori-makoken.com/>

「ALPS 処理水」や「汚染かぶり事故」など  
について情報満載！ぜひご覧ください。